



第59回大阪国際フェスティバル 2021

大阪国際フェスティバル × 大阪交響楽団 × 関西二期会

ジョアキーノ・ロッシーニ作曲

オペラ 泥棒かささぎ (演奏会形式)

Gioachino Rossini "La gazza ladra"

全2幕

原語 (イタリア語) 上演・日本語字幕付き



Gioachino Rossini
1792-1868

©N Nagasaki

ベル

来年に公演延期

2022年8月9日(火)

指揮
園田隆一郎



(c) Fabio Parenzan



管弦楽：大阪交響楽団

合唱：ソプラノ1 太田尚見 岡本真季 テノール 諏訪部匡司 しまふく羊太
三村浩美 岩本実奈子 岡成秀樹 近藤勇斗

ステージング：奥村啓吾

ソプラノ2 名島嘉津栄 味岡真紀子 バス 伊藤友祐 谷本尚隆
堀口莉絵 安本佳苗 山川大樹 神田行雄

2021年6月5日(土) フェスティバルホール 14:00 開演 (13:00 開場)

<チケット料金> (全席指定・消費税込み)

S席 8,500円/A席 7,500円/B席 6,500円/SS席 9,500円/BOX席 12,500円/バルコニー BOX席 (2席セット) 17,000円/学生席 3,500円

<チケット・お問い合わせ> フェスティバルホール 06-6231-2221 (10:00~18:00) <https://www.festivalhall.jp> (要事前登録)

主催：朝日新聞文化財団、朝日新聞社、大阪交響楽団、関西二期会、フェスティバルホール

協賛：朝日放送グループホールディングス、関電工、ダイキン工業、大和ハウス工業、高砂熱学工業、竹中工務店、西原衛生工業所

協力：大阪芸術大学、日本ロッシーニ協会

デザイン・画：編田しおり (大阪芸術大学デザイン学科)



「このオペラ、あなたを確実に幸せにするはず」――。

フリーアナウンサー、コンサート・ソムリエ / 日本ロッシーニ協会副会長

朝岡聡さんの「泥棒かささぎ」見どころ、聴きどころ

インパクトは「水戸黄門」並み?

「泥棒かささぎ」というオペラを実際に生でご覧になった方は、少ないと思う。名前も初めて聞いた人も多いだろう。さて、そんなオペラの面白さと美しさを何と語ろうか…。そんな私の心に浮かんだのは、昔懐かしいテレビドラマ「水戸黄門」である。

想い出していただきたい。最初のテーマソングのインパクト! 「人生楽ありや、苦もあるさ…」。有名なメロディでしたよね。実はこのオペラの序曲も、コンサートで単独で演奏されるほどの有名曲。小太鼓の連打から始まる壮麗な音楽がまことに印象的なのだが、この冒頭のドラムロールは、初演当時の聴衆にとって「ええっ!」と驚くものだったに違いない。何故ならそれは昔の習慣で処刑の合図だったから。

主人公のピンチを救うのは…

となれば、ストーリーにも興味がわく。主人公は村の地主に仕える小間使いニネッタという娘で、地主の息子と相思相愛なのだが、銀食器を盗んだ嫌疑に加え、父親が軍隊を脱走したのをかくまっで窮地に陥る。彼女に横恋慕する村の代官を袖にしたのも手伝い、ついに死刑宣告を受けてしまう。だが処刑寸前に急転直下無実が明らかになって、めでたしめでたしの結末。ただし解決のカギは「葵の御紋」ではなく、盗みの真犯人が鶺鴒(かささぎ)なのが判明したこと。ちなみに、この鳥は光るものにと

関心があるようだ。

庶民が主演。村の悪代官が登場したり、父と娘の涙の愛情場面あり、ニネッタの無実を信じる家族や恋人の心情描写あり、最終場面での劇的ハッピーエンド…このあたりも有名時代劇とよく似た展開。観る人を飽かさず、まこと起伏に富んだストーリーだと思う。

父・娘・悪代官、三つ巴のスリル

しかし、このオペラの魅力は何といってもロッシーニの音楽にある。先に触れた序曲では華麗な「ロッシーニ・クレッシェンド」が楽しめるほか、善良で誠実なニネッタと邪悪な代官の性格を、音楽的にも見事に絡めている。

お楽しみのは、ヒロインのニネッタと恋人のジャンネットがそれぞれ登場時に歌うアリア。特にジャンネットの歌う「おいで、この腕の中に」は、華やかな装飾が散りばめられており、聴きごたえ十分! 彼らの喜怒哀楽が超絶技巧の歌唱で表現されるのを聴くのは至福の境地。この二人は第2幕でも、愛の二重唱の切々たる歌唱を披露してくれる。

このオペラでは、主人公ニネッタはほとんど出ずっぱりなのだが、恋人ジャンネット、父親や代官、友人の若い農夫ピッポらとも素晴らしい重唱を随所で繰り広げる。特に第1幕最後の3重唱は、ニネッタに迫る代官と軽蔑するニネッタ、物陰からこれを眺めて憤慨する父フェルナンドの三つ巴が音

楽的にもどンドン発展していく。

必聴! 裁判シーンの5重唱と合唱

そして、第2幕のニネッタの裁判シーンの5重唱と合唱が、これまた素晴らしい。嘆きや怒りが渦巻く混乱の場面なのに、なんと心浮き立ってしまう音楽なのか! この音楽を聴く時の心の昂ぶりといったらない。これがロッシーニだ! その快感は熱き鼓動となる…。

物語の最後は、荘厳な葬送行進曲に祈りのアリアが続く。まるで宗教曲のようなシリアスさが漂った直後、音楽が長調のアレグロにガラッと転換。ニネッタの無実と放免、さらに父との感動の再会と喜びが刻々と描かれてゆく。このあたりの急展開も、ロッシーニの筆にかかれば心地よい音楽絵巻そのものだ。

「ロッシーニの神様」の薫陶を受けて

フェスティバルホールでは2015年に「ロッシーニの神様」こと故アルベルト・ゼツダ指揮の「ランスへの旅」、2018年には園田隆一郎の指揮で「ラ・チェネレントラ」と、ロッシーニものが上演されてきた。今回も、指揮の園田を始め老田裕子、小堀勇介、伊藤貴之とゼツダ翁の薫陶を受けたメンバーに加え、関西の実力歌手も多く名を連ねる。

このオペラ、あなたを確実に幸せにするはず。
(「festival hall News」vol.34 / 2021年春号から転載)

朝岡聡さんと見る「泥棒かささぎ」リハーサル見学会を開きます 主催:朝日カルチャーセンター、朝日新聞文化財団、朝日新聞社

公演前日にフェスティバルホールで行われる通し稽古(ゲネプロ)から、第1幕のリハーサル風景を見学して、翌日の本番に備えませんか? 見学の前には、ロッシーニのオペラをこよなく愛するフリーアナウンサーで日本ロッシーニ協会副会長の朝岡聡さんに、魅力や聴きどころをお話しいたできます。

日時 6月4日(金) 集合:14:30
講義:14:45~15:45 / リハーサル見学:16:00~17:30(予定)
会場 フェスティバルホール
講師 朝岡聡(フリーアナウンサー、コンサート・ソムリエ / 日本ロッシーニ協会副会長)
受講料 会員・一般とも2,750円
お申し込み 朝日カルチャーセンター中之島 06-6222-5224
(月~土9:30~18:30, 日・祝除く)
詳細は、<https://www.asahiculture.jp/nakanoshima>
※募集開始は4月5日(月)。電話予約、受付窓口のみで受け付けます。
※本公演チケットをお持ちの方に限ります。お申し込みの際に席番をお伺いします。
※見学会のみの申し込みはできません。見学席は当日、ご案内します。

定員 先着30名様



Gioachino Rossini
1792 - 1868

©N.Nagaoka

チケット料金

S席 8,500円 / A席 7,500円 / B席 6,500円 / SS席 9,500円 / BOX席 12,500円 / バルコニー BOX席(2席セット) 17,000円 / 学生席 3,500円
※バルコニー BOX席はフェスティバルホール チケットセンターでの電話予約・窓口販売のみ
※学生席はフェスティバルホール チケットセンターのみで販売(25歳以下 / 学生本人の名前でご予約ください / 当日指定席と引き換え / 引き換え時、学生証をご提示ください)

ご予約 お問い合わせ

フェスティバルホール チケットセンター 06-6231-2221 (10:00~18:00)
フェスティバルホール オンラインチケット <https://www.festivalhall.jp> (要事前登録)
大阪交響楽団 072-226-5522 (平日10:00~17:00) <http://sym.jp/>

プレイガイド

チケットぴあ <https://t.pia.jp> 0570-02-9999 [Pコード:191-336] / ローソンチケット <https://l-tike.com/> [Lコード:54908]
CNプレイガイド <https://www.cnplayguide.com/> 0570-08-9990 / e+(イープラス) <https://eplus.jp/> / セブンチケット <http://7ticket.jp/sc/21nh>

*やむを得ない事情により曲目、出演者等を一部変更する場合がございます。公演中止の場合を除き、チケットの変更・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。*未就学児のご入場はご遠慮ください。